

コンクリート主任技士試験完全攻略問題集 2018 年版 訂正箇所

2018 年 10 月 5 日

読者の皆様には大変ご迷惑をおかけいたしますが、下記のとおり修正してお読み下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。

174 ページ G - 3 2015 年度問題 11 の解説 青字部を追加

弾性ひずみは以下の式より算出できる。

$$\varepsilon_e = \sigma_e / E$$

$$\sigma_e = \text{圧縮強度 } 36.0 \text{ の } 1/3$$

$$= 36.0 \div 3 = 12.0$$

$$E = 30 \times 10^3 = 30000$$

$$\varepsilon_e = 12.0/30000$$

$$= 4.0 \times 10^{-4} \text{ 単位を揃えると}$$

$$= 400 \times 10^{-6}$$

また、図に持続載荷 1 年後の各ひずみ-経時曲線図を示す。

いま、1 年後の全ひずみ（弾性ひずみ+収縮ひずみ+クリープひずみ）が 1200×10^{-6} 、収縮ひずみは 400×10^{-6} 、弾性ひずみは 400×10^{-6} であるから、

$$\text{クリープひずみ} = \text{全ひずみ} - \text{弾性ひずみ} - \text{収縮ひずみ}$$

$$= (1200 - 400 - 400) \times 10^{-6}$$

$$= 400 \times 10^{-6}$$

ε_c : クリープひずみ (c : creep)

ε_s : 収縮ひずみ (s : shrinkage)

$$\text{クリープ係数 } \phi = \varepsilon_c / \varepsilon_e = 400 \times 10^{-6} / (400 \times 10^{-6}) = 1.0$$

ϕ (Creep factor : クリープひずみを弾性ひずみで除した値)

190 ページ 演習問題 G - 8 赤字部を訂正

(2) クリープ係数とは、クリープひずみと弾性ひずみの比で～

276 ページ 演習問題 J - 9 赤字部を訂正

	細骨材の量り取られた計量値 (kg/m ³)	粗骨材の量り取られた計量値 (kg/m ³)
(1)	1737	2026
(2)	1746	2138
(3)	1658	2147
(4)	1712	2164

277 ページ 演習問題 J - 9 の解説 赤字部を訂正

細骨材の許容範囲は、およそ $1640 \leq 1691 \leq 1742$ となる。

319 ページ L - 4 2014 年度問題 18 赤字部を訂正
L - 2 2014 年度問題 18

321 ページ L - 5 2014 年度問題 19 赤字部を訂正
L - 3 2014 年度問題 19

323 ページ 解説 赤字部を訂正

径ごとに分けると、125A の輸送管で 125m、100A の輸送管で 50m である。～

$$= (125\text{m} \times 0.010\text{N/mm}^2/\text{m}) + (50\text{m} \times 0.015\text{N/mm}^2/\text{m})$$

$$= 2\text{N/mm}^2$$

～選定するので、 2N/mm^2 の 1.25 倍 = 2.5N/mm^2 以上で、～

361 ページ 解説 赤字部を訂正

$$T = \{0.2 (20 \times 1900 + 50 \times 300) + 10 \times 165\} / \{0.2 (1900 + 300) + 165\} = 20.2$$
$$\div 20$$

訂正事項および補記は、弊社ホームページ (www.beton.co.jp) にてお知らせしておりますので、ご参照ください。